

他者と対話し、よりよい生き方を考える
道徳科の授業を目指して
—小・中学校で活用できる「こころのマップ」を通して—

長期研修員 高橋千夏 田島晃代 高草木元浩

研究構想図

【目指す児童生徒像】

他者と対話し、よりよい生き方を考える児童生徒



【児童生徒の実態】

・十分に考えを広げ深められていない

【教師の課題】

・「考え、議論する道徳」への不安

「こころのマップ」を使った授業の流れ

教材名

名前

最初に考えよう

A 道徳的価値について想起し、自分で考える

自分で考えよう

B 中心発問に対して自分で考える

対話を通して多様な感じ方や考え方に会い、考える

“点線もこもこ”

友達のことをよく聞いてさらに考えよう

更に考える
“フリースペース”

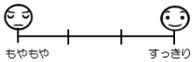
自分の考えを整理する
“実線もこもこ”

今日の学びを振り返ろう

D 深まった道徳的価値の理解を基に、これまでの自己を振り返り、これからの生き方を考える

終末での気持ち

本時で追求したい道徳的価値



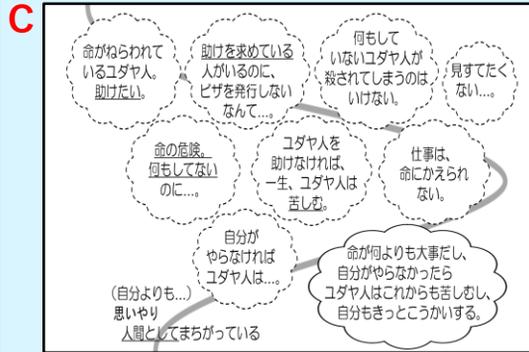
実践例(小学校6年)
C-(13)公正、公平、社会正義
主題名「社会正義の実現」
教材名「杉原千畝-大勢の人の命を守った外交官-」

A 「正義の人」とはどのような人でしょう。

悪をやっつけ、人を助ける人

B ビザの発行を決意したのは、どのような思いがあったからなのでしょう。

ユダヤ人を助けることができなかつたら、一生こうかいする。



D 今日の学習で、正義とは何か分かったような気がした。正義とは、自分が正しいと思ったことをやりとげることだと思う。ぼくも千畝さんみたいに正しいことをやりたいと思う。

正義とは

こころのマップ

対話をしながら書くことが難しい場合

実態に応じた活用のために

★書くことへの負担軽減のために、“もこもこ”の数や大きさなどを調整

こころのマップ

文をたくさん書くことが難しい場合

心が動いた他者の考えを書く

観点ごとに相手の名前を書く

成果 「こころのマップ」は、対話を通してよりよい生き方についての考えを広げ深めることができ、「考え、議論する道徳」の授業につながるものとして活用できる。

課題 「こころのマップ」を効果的に活用するためには、児童生徒の実態に合わせ、形式などを更に工夫していく必要がある。

提言 「こころのマップ」を活用し、他者と対話しながら、多様な感じ方や考え方を比較・検討し、道徳的価値を追求していく授業を実現していきましょう。